

輸入合板・木質ボード商況

輸入南洋材合板は遅れとなっていた旧値玉が入り交じって流通するなかで、価格も様々で相場が定まりづらい。ただ、産地価格は上昇傾向が落ち着く様子はない。マレーシア、インドネシアの合板メーカーはともに原木の確保に苦労している。6月は現地の大型連休もあるため、出材量は減少するとの見方が強い。このため、現地メーカーは更なる生産コストの上昇を背景に、値上げを打ち出している。

国内の荷動き不振

各社独自の規定により限度があるため、1ドル109.110円と4月頃と比べて円安基調で推移。円安基調で推移。入荷コスト上昇分の国内価格の反映の遅れに繋がるのではないかと懸念する声も。

塗装型枠合板の値差広がる

首都圏の輸入南洋材合板市場は荷動きが停滞している。年々上がっているとの声も度初めには5月大型連休明けからの荷動きの活発化が期待されているが、実際に若干の品薄感が残っている。

置床用に品薄感

PB

PB（パーティクルボード）は置床用PBの品薄感が強まっている。国内PBメーカーは構造用や化粧板などの主力品目の需要が堅調で、昨年からの旺盛な需要によりPBカー在庫もほとんどないことから、主力品目の生産を最優先にせざるを得ない。また、東京五輪関連施設への納入が始まるため、置床用PBを生産するメーカーはそちらを優先しなくてはならぬ、市中への流通量は一段と減少する見込み。

中部市況

輸入合板は、入荷の減少基調は多少薄らいだが、品薄と産地高の構図は継続している。現地の合板工場は原木の調達が進まず、更にマレーシア・サバ州の丸太輸出禁止の影響が懸念されるため、現地価格は当面強含むと見られる。一方、当地区の需要はあまり活気がなく、期待された5月の大型連休明けの荷動き台頭も不発。川下には一服感が広がっている。

南洋材合板

は盛り上がりを感じていない。ただ、塗装型枠合板など主力の12ミ厚系品目では荷余り感はないが、荷動きの鈍さからこれまでの品薄感が薄れてきている。

国産材製品全国商況

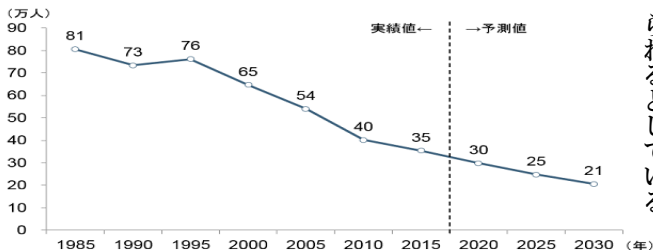
国産材製品の荷動きは、全国的に鈍い状態が続く。昨年は7月に需要の小山があったが、今年には期待感が薄く引き合いが低調で、丸太価格もやや弱いため、製品の地合いが緩む背景がある」と話す。

名古屋

プレカット工場の稼働状況を反映して国産材製品の販売は伸び悩んでおり、問屋筋ではこの状況が続くことによる値崩れを懸念している。問屋では、Wウッド製品の代替品として杉羽柄材の需要が増加していると指摘し、「代替需要だけでなくコスト低減に対するニーズも高いため、低い製品に品薄感がある」と話す。

2030年の大工の人数は

野村総合研究所は、大工の人数が2030年に21万人になるとの予測を発表した。大工の高齢化、産業間の人材獲得競争の激化などの影響により、減少が進むとの見方を示した。



表示説明

市況状況

値下げ 横ばい 値上げ

ラワン薄ベニヤ・・・

ラワン正寸12mm T2・・・

針葉樹12mm 3×6・・・